

キックオフセミナー報告
「明日の医療を担う家庭医・かかりつけ医」

日時：平成23年1月30日（日）10:00～15:30

場所：機械振興会館

当社主催のキックオフセミナーを本年1月30日、東京・港区芝の機械振興会館において開催いたしました。セミナーの内容は、講演が2題と講演の演者による対談の3部構成です。開業医師、医学部学生、一般参加者など約40名が出席し、質疑も活発に行われ、明日の医療を考える有意義なセミナーとなりました。



医師・医学生・コメディカル他、他業種の方が参加

「社会が求めるやりがいのある仕事。いま家庭医に追い風」 —— 前野哲博先生

最初に筑波大学大学院 人間総合科学研究科 地域医療教育分野教授の前野哲博先生が「より良き家庭医・かかりつけ医を目指して」をテーマに講演しました。前野先生は“家庭医（総合診療医）”の定義を『すべての人に、最適な医療サービスを、提供できる医師』とし、患者、その家族、地域に応える医師であるとともに、その場その場のニーズに応える医師が“家庭医”と位置づけています。

医学界のなかでは、以前は臓器専門医が重んじられていましたが、「時代は家庭医を求めている」として、家庭医に追い風が吹いていると言われていいます。また、大学で医学教育する立場から、家

庭医療（地域医療）を行う義務があるものの、家庭医療を教育実施していくうえで、「フィールドがない」、「教育資源がない」、「コーディネーターがない」などの不備を指摘しました。

家庭医を目指す医学生に対して、「家庭医への道は険しいが、まず、自分がなりたい医者をも具体的にイメージしましょう」、そして「なりたい医者のイメージを崩さずにすむところで研修を受けましょう」とアドバイスをしています。

最後に家庭医を目指す皆さんへ「家庭医療は、これから社会に求められている、やりがいのある仕事です。百聞は一見に如かず。まず、ロールモデルを見つけよう。自分のなりたい医者になろう。志を同じくする仲間同士、積極的に情報交換して心の選択を」とエールを送りました。



家庭医教育の現状を講演される前野先生

「家庭医は地域のコンビニ。医療ネットワークが重要」 —— 北垣毅先生

次に花見川中央クリニック（千葉市）院長の北垣毅先生が「家庭医療最前線 外来におけるピットフォール」をテーマに講演しました。北垣先生は、地域での家庭医を実践する中で起きる様々な問題点や診療での落とし穴、家庭医のあり方や将来に

ついて述べました。

医療の役割分担として、総合病院は規模も大きく、専門性を持っている「デパート」、家庭医は小さいが一応必要なものは最低限何でも揃っている「コンビニ」に例え、その中で、日常の診療におけるピットフォールをいくつか挙げて、専門医や総合病院とのネットワークを通じてより適切な医療を施すことの必要性を指摘しました。

また、現場での一人医師の診療の改善策として看護師や栄養士のコメディカルの活用を挙げています。医師の診察の待ち時間を利用した看護師による詳細な問診、検査の実施、診察後の電話でのフォローをコメディカルが担う「クリニックのサンドイッチ診療」と呼んで実践しています。

最後に家庭医が日本で活躍できるかについては、ロールモデルがない、訓練施設がない、患者との認識やフリーアクセスの障壁などがあるが、「家庭医が地域医療を救う最後の手段」として家庭医の役割の大きさを指摘しました。



家庭医療実践の現場を語る北垣先生

「対談」

前野先生：多いネガティブ意見に惑わされずに

北垣先生：家庭医の面白さを見つけて欲しい

山本さん：地域に根ざした医療をやりたい

対談ではコーディネートの自治医科大学5年生の山本愛さんを加え、講演者の前野先生と北野先生による対談が行われました。

まず、山本さんが自己紹介のなかで「地域に根ざした医師になりたい。家庭医夏季研修会で勉強したことが家庭医を目指すきっかけとなりました」と家庭医を目指して勉強している背景を述べました。

いま家庭医を取り巻く環境を、前野先生は「追い風」と指摘、一方で大学での医学教育は臓器別専門診療科単位、大学は自分のコピーを作ろうとする傾向があるとして、家庭医を育てる環境の薄さを挙げていました。さらに、臓器別専門性を追求するあまり、家庭医へのネガティブな意見も多いので「大学時代に自分の志を突き通すことが必要です」と示唆しました。

北垣先生は「患者は大学病院では診てもらえる医師を知らないで行くが、クリニックには医師である自分のところに来る。患者と医師との関係がつかれる。家庭医の面白さを見つけて欲しい」と言います。

家庭医を推進していく上で、前野先生、北垣先生より医療者の立場から民間の企業にしてほしいこと、主催の医療・健康サポート株式会社に今後期待することとして「家庭医の日本での浸透はまだまだ。行政のスピードが遅く、民間で出来ることも多いので、是非頑張って支援して欲しい」とそれぞれ述べていました。

